

北見工業大学
二十五年史



全 景



事務局・学生部



附属図書館



大学会館・保健管理センター



機械工学科



応用機械工学科



電子工学科・電気工学科



工業化学科・環境工学科



土木工学科・開発工学科



一般教育棟



電子計算機室



講 堂



体 育 館



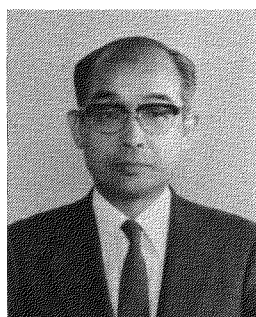
屈斜路研修所



北苑寮

まえがき

北見工業大学学長 林 正道



北見工業大学は、昭和35年4月、国立の北見工業短期大学として創設され、6年後の昭和41年4月に4年制の工業大学に昇格、現在では8学科を擁するまでに発展し、ここに創立25周年の記念すべき年を迎えるに至りました。

工業短期大学創設時には機械科と応用化学科の2科および一般教育課程でありましたが、昭和37年に電気科、昭和40年に土木科が設置されました。

昭和41年の4年制大学昇格時には、この4科を母体にして機械工学科、電気工学科、工業化学科、土木工学科の4学科と一般教育等で発足したのであります。その後昭和45年に開発工学科、48年に電子工学科、51年に環境工学科、54年に応用機械工学科が設置され、現在の8学科体制になった次第であります。

この間、昭和51年に工学専攻科5専攻が設置され、昭和52年、55年に各1専攻が増設され7専攻になりました。また、昭和59年4月には待望久しかった大学院工学研究科修士課程機械工学専攻、電気・電子工学専攻、化学・環境工学専攻、土木・開発工学専攻の4専攻が設置され、工学専攻科7専攻が廃止されたのであります。また、武道館、体育館、北苑寮、図書館、大学会館、保健管理センター、大学講堂、電子計算機室など教育研究に必要な諸施設、設備をはじめ課外活動や福利厚生などの諸施設も整備拡充されてきております。

一方、この間に総数約4,000名の卒業生が、産業界はもとより官界学界などの各分野で幅広く活躍され、高い評価と信頼とを得ておりますことは私共の常に誇りとしているところであります。

この四半世紀の歩みは、前半は高度成長期、後半はニクソンショックと2回にわたるオイルショックに見舞われるなどの目まぐるしい内外の諸情勢の変転の中でのことだけに、幾多の困難を伴ったことと思われまふ。関係各位の御労苦と建設的な御努力

とに対し心から敬意を表するものであります。特に、地域社会から寄せられた御協力御援助は本学の歴史の上に特筆すべきものと考えてるのであります。

四半世紀とは申しまして、内外の多くの大学の歴史にくらべれば非常に浅く、ようやく草創期を脱した段階にあり、大学の発展と充実の歴史はこれから始まるといっても過言ではありません。この意味で本学の歴史を継承する私達の使命は重大であります。

本学の歴史の継承方法については早くから論議されておりましたが、創立25周年記念事業の目玉として創立25年史を刊行し実現するのが最善の方法であるとの結論に達し、種々の経緯を経て今般発刊の運びとなったのであります。すなわち、創立25年史の刊行を最重点事業とし、本学の歩んだ輝かしい足跡をかえりみ、旧交を温め、先人に感謝し、物故者の霊を慰め、さらに今後の本学の発展の決意を新たにすため、記念式典の挙行、功労者の表彰、記念植樹などを創立25周年記念事業として計画した次第であります。

わが国の今日の科学技術は国際的にも高い水準にあります。21世紀に予想される世界的な資源・エネルギーや食糧の問題など、深刻な危機を乗り越えるためにも独自の科学技術の研究開発が求められております。特に資源小国のわが国では科学技術の果たす役割が他の国々よりもはるかに大きいのであります。したがって、これらに対応できるよう21世紀を見通した将来計画を策定し、教育研究体制を整備していかなければなりません。そして優秀な人材を育成し、かつ研究を飛躍的に進展させ、国家社会に寄与し、産業の興隆と文化の発展に貢献しなければならないのであります。

今後いつの日か再び記念史が発刊されることと思われませんが、その時には大学院の博士課程が実現し、特色ある研究教育によって地方文化の中核として、あるいは関係国との研究の中核として発展していることと思います。そしてその業績がさん然と記念史をいろどっていることを期待せずにはおられません。

創立25年史の編集は、昭和55年4月30日に学内に設置された創立25年史編集委員会において4年有余にわたり行われたものであります。この25年史を御覧になられる時、創立に御尽力いただいた関係者はもとより、旧現教職員、卒業生各位それぞれ多くの思い出をくみとられることと思います。創立に当たっての生みの苦しみ、4年制大学への移行過程、大学紛争、壮年青春の数々の苦楽などありましよう。また、すばらしい北見の自然環境、たとえば、阿寒、大雪山、知床の3つの国立公園と、網走国定公園に囲まれた絶好の環境にあること、あるいは暑い夏、気温の低い冬、また

日本一高い日照率、日本一少ない降水量、日本一弱い風、などもありましょう。誠に感慨深いものがあることと思います。

最後に、創立25年史の刊行に指導的役割を果たされた小池東一郎前学長、必要な資料を提供されたかたがた、執筆されたかたがた、終始原稿の整理その他膨大な作業に労を惜しまれなかった清水昭典編集委員会委員長をはじめ、棟徹夫副委員長ならびに各委員のかたがた及び関係教職員各位にあらためて深甚なる敬意と謝意を表す次第であります。

なお、本25年史の刊行には、創立25周年記念事業のために寄せられた多額の醸金があてられております。ここに醸金者各位に厚く御礼申し上げます。

目 次

まえがき

第Ⅰ編 北見工業短期大学の設置と発展

| | |
|-----------------|----|
| 第1章 北見工業短期大学の設置 | 3 |
| (1) 大学誘致の動き | 3 |
| (2) 設置の具体化 | 10 |
| (3) 開学と組織・設備の整備 | 15 |
| 第2章 一般教育 | 28 |
| 第3章 機械科 | 33 |
| 第4章 応用化学科 | 38 |
| 第5章 電気科の設置 | 43 |
| 第6章 土木科の設置 | 45 |
| 第7章 学園生活 | 49 |

第Ⅱ編 北見工業大学の設置と発展

| | |
|------------------------|-----|
| 第1章 迫られる高専移行と4年制大学昇格運動 | 55 |
| 第2章 設置準備と開学 | 61 |
| 第3章 組織・機構の整備と諸改革 | 65 |
| (1) 事務局 | 65 |
| (2) 初期の審議機関 | 85 |
| (3) 学 則 | 86 |
| (4) 教授会と規程およびその改正 | 93 |
| 第4章 一般教育自然系 | 99 |
| 第5章 一般教育人文系 | 103 |
| 第6章 機械工学科 | 110 |
| 第7章 電気工学科 | 118 |
| 第8章 工業化学科 | 123 |
| 第9章 土木工学科 | 129 |
| 第10章 学生部と学生生活 | 135 |
| 第11章 北苑寮の建設と入寮と運営 | 146 |

| | | |
|------|------------------------|-----|
| 第12章 | 開発工学科の設置 | 152 |
| 第13章 | 附属図書館 | 159 |
| 第14章 | 大学問題と紛争 | 171 |
| 第15章 | 電子工学科の設置 | 186 |
| 第16章 | 環境工学科の設置 | 190 |
| 第17章 | 専攻科の設置 | 195 |
| 第18章 | 保健管理センターの設置 | 196 |
| 第19章 | 共通学科目の設置 | 199 |
| 第20章 | 応用機械工学科の設置 | 201 |
| 第21章 | 各種研究教育施設等 | 207 |
| (1) | 寒地工学研究室 | 207 |
| (2) | 環境サイエンス研究室 | 210 |
| (3) | 太陽エネルギー研究室 | 213 |
| 第22章 | 共同利用施設 | 218 |
| (1) | 電子計算機室 | 218 |
| (2) | 電子顕微鏡室 | 221 |
| (3) | X線回折装置室 | 222 |
| 第23章 | 大学院工学研究科修士課程の設置と専攻科の廃止 | 224 |

年 表

あとがき